胃がん検診の注意事項

※自覚症状がある方は集団検診に適しません。必ず医療機関で受診してください。

※次の方は、受診の可否をご確認ください。

種別	対象者	受診の可否	理由
胃	バリウム検査で蕁麻疹等のアレルギーを起こしたことがある方	**受診しないでください**	アナフィラキシーショックの危険があることから、検査を希望される方は医療機関にご相談ください。
	１年以内に腹部手術を受けた方		腸閉塞などを起こす可能性があります。
	便秘（現在３日間以上排便がない）の方		バリウムの停滞、排出遅延により消化管穿孔など重篤な合併症の恐れがあります。
	心不全のため水分制限されている方		水分制限のため、バリウム排出困難が予想されます。
	高血圧（180/110mmHg以上）の方		日本高血圧学会による重症高血圧であり、合併症を誘発する恐れがあります。病院を受診し、降圧剤により血圧が安定すれば受診可能です。
	脳血管障害の発作が１年以内にあった方		１年以内に発作があった方は、安全を考慮して受診できません。
	脳圧亢進でシャント中の方		シャントチューブ破損などの危険があります。
	透析中の方		水分制限のため、バリウム排出困難が予想されます。
	慢性腎疾患のため水分制限されている方		水分制限のため、バリウム排出困難が予想されます。
	妊娠またはその可能性がある方		胎児への影響が想定されます。
	腸閉塞の既往がある方		バリウムの停滞、排出遅延により消化管穿孔などの重篤な合併症の恐れがあります。
	身長195㎝以上または体重120kg以上の方		撮影装置の問題から受診できません。

種別	対象者	受診の可否	理由
胃	認知症（理解困難がある）の方	**受診をお勧めしません**	検査時、指示通りに動けない場合、安全の確保ができないことが想定されます。
	胃全摘された方		胃そのものが無いので、検診の意味がありません。食道空腸吻合部は空気で膨らませたり、周囲の壁にバリウムを付着させることが難しく、集団検診は適しません。
	胃３分の１以上切除された方		胃内の空気とバリウムが腸に流れやすく、吻合部位などの写真判定は困難なことがあり、集団検診は適しません。
	腰がかなり曲がっている方		数回の体位変換（回転）が必要なので、受診者本人の負担が大きいといえます。また、胃・十二指腸の形状や位置が正常に映りにくく、写真判定は困難なことがあります。
	手足の完全片麻痺の方		体位変換（回転）が困難な場合、想定の撮影法による写真が撮れません。また、体位変換に時間がかかると、バリウムが腸に流れてしまい、写真での判定に支障をきたすことがあります。
	高齢者（80歳以上）の方		一般に、高齢者では嚥下機能や腸管の機能低下がみられ、バリウムの誤嚥や便秘による腸管穿孔のリスクが高くなります。また、体位変換に時間がかかると、バリウムが腸に流れやすく、写真での判定に支障をきたすことがあります。